

『病気の成り立ちを知る』(基本を学ぶ 看護シリーズ 3)

人の病気がわかる 「症状マネジメント」—— 看護学生には必読

監修：草間朋子・脊山洋右・松本純夫／編集：草間朋子・松本純夫／
著：穴沢小百合・竹内朋子・松本和史・松山友子・草間朋子・松本純夫
定価：本体 3,100 円＋税／発行：東京化学同人／TEL：03-3946-5311



看護師はなぜ「症状マネジメント」をするのか、どのように「症状マネジメント」するのか、本書は看護師のこの問いに的確に答えてくれる最良の書である。

本書の基幹である「第4章 患者の症状から病気を推定する」は、①定義、②発生の仕組みと原因、③アセスメント、④治療と看護のポイントからなり、症状をもつ患者に遭遇したときに看護師が患者を理解するプロセスに沿って構成されているので、まるでそこに患者がいるかのように症状マネジメントが理解できる。この章だけでなく、本書全体の構成が「第2章 面接・観察を通して状態を把握する」「第3章 臨床検査の結果を通して状態を把握する」「第4章 患者の症状から病気を推定する」と看護師としての「症状アセスメント」のプロセスに沿っており、第1章と第5章には症状マネジメントに必要な医学的知識が補完され、読み進めることで自然に「症状マネジメント」がわかるようになっている。また、臨床看護師が症状をもつ患者を理解するときに湧く疑問やもっと知りたい内容、思い出せない解剖生理の内容がコラムや図解で詳細かつ平易に説明されており、より理解を助けてくれている。さらに、第3章は臨床検査の結果からまさしく患者の状態が判断できるようになるために、検査値の判断の仕方や検査値等から考えられる疾患、緊急対応を要する検

査値がパッとわかるようにかつ詳細に記載され、他の本にはない患者の症状を理解するのにほしかった臨床検査の知識がこの章にある。まさにこの1冊で、患者さんにとって最適な症状マネジメントができるようになっている。

このような人の病気がわかる「症状マネジメント」を学べる良書が、「看護基礎教育検討会」(厚生労働省)で「対象の症状や兆候からアセスメントする能力」の強化や臨床推論の必要性が議論されている最中に、タイムリーに出版されたことは看護基礎教育に携わる者にとって好機である。看護学生の必読書として、ぜひお勧めしたい本である。

本書の特徴はこれだけではない。「第1章 疾病を理解するための基本的事項」では多死時代において、患者の死を最初に確認する看護師に必要な「死亡」に関する知識について、看護師として人の死をどうとらえどう対応するかを日本の風習や最新のガイドラインを踏まえてまとめられている。これは他の書にはない。ぜひ一読ください。

本書は、これからの日本の医療を見据えつつ、看護師の症状マネジメントに必要な根幹となる知識・スキルが凝縮した書である。まさに座右の書にしたい良書である。